

春日部桐箱とは

春日部の桐箱は江戸時代の初期、日光東照宮造営に参加した工匠達により技術を伝承して以来、約三百年の伝統と全国一の生産量を誇る春日部市の特産品であり、埼玉県伝統的手工芸品としての指定も受けています。

保存性の高い収納

世界で唯一、桐を家具用材とするこの日本で、桐の収納具が庶民の間に広まったのは、江戸時代末期に桐箆筥が登場してからのことです。それまでは竹製の行李、木製の長持や櫃など、箱状のシンプルな収納具が使われていました。経済が著しく発展し、庶民の暮らしがよくなると、増えた持ち物を効率的にしまうための収納家具が広く求められるようになったのです。場所を取らず、細かく仕分ける引き出しを備えた機能的な箆筥は、時代のニーズに応えた新しい収納家具でした。

春日部桐箱の歴史

約三百年の歴史と伝統を誇る春日部の桐小箱。

ちょうど江戸時代の始め頃、日光東照宮造営のために全国から優れた工匠が参集しました。彼らは、その後もその地に留まり、豊富な桐材をもとに、指物、文庫、桐枕、整理箱やその他庶民向けの小さな日用品を作り続けました。

天保年間には、数十軒の指物師や箱屋がこの地に住んでいたという記録も古文書に残されています。以来、三百年もの間、その匠の技が受け継がれ、現在では、全国一の生産量を誇る春日部の特産品として人気を呼んでいます。

春日部桐箱の特長

春日部で作られる桐箱の種類は、初期の桐枕や整理箱をはじめ、抽出し、文箱、針箱などのインテリア小物、さらに貴金属、金属製品繊維、陶漆器、書画、骨董類、茶、華道用品、食品、装飾品などの高級品の収納にまたとない入れ物として、広く愛されています。

桐は、木目が美しく光沢があり、防虫、防カビなど、優れた性質があることで知られています。また、火や水に強く、耐久性も高いことで、昔から様々な道具や家具に重宝されてきました。再び木のある暮らしが見直されている現在、桐が生活に暖かい感触をもたらしてくれることでしょう。これからは、伝統的な桐箱を大切にしつつ、新しい技術の導入や斬新なデザインなども取り入れ、ますます春日部の桐箱の価値観が高まってきます。

桐箱 名刺入れ

